

平成26年度東京都中学校美術教育研修会 夏季研修

東京都中学校美術教育研究会 教科研究部

研修内容：テーマ「つながり、広がり、翔たく ～感じることを、表すこと～」

都中美第3ブロック大会テーマとの関連をはかりながら、授業研究・協議を中心に研修する

【主たる研究発表の内容】

成長と連携をテーマに授業力向上の視点で研究協議・発表を行う

1・経緯

今年度の成果の一つ 「夏の研修を2プロ&全造の大会のプレ研修として位置づけ、

段階的に研究・研修を繋げ、深めることができた。」

今年度も都中美夏の研修と3ブロックの大会とを、何らかの形で研修を繋げていくことはできないだろうかという提案がなされた。東京都の多くの中学校美術の先生方が課題と感じていることを研究テーマとし、都中美教科研究部として研究を深めていくと、「参加したくなる研修・実際の授業が変わる研修」となり良い取り組みになると考えた。また、25年度の研究内容・成果を、さらに繋げて発展させたいとの話し合いになった。

効果 ⇒ ・東京都として系統立てて研究を深めることができる。

課題 ⇒ ・研究テーマ内容の周知徹底の難しさ

・下りてきたテーマに対する各担当の取り組みやすさ

2・前年度の反省と今年度の展望について

流れについて ・前年度11月 4分科会にし、6の授業という構想がほぼ決定。

・3月春期休業 教科研究部に主旨説明・担当決め

・5月 2ブロック授業者決定

・6月 初顔合わせ

・7月 紀要原稿締め切り

成果① チームで作っていったという実績 大学の先生にも入っていただき、様々な立ち位置や視点から授業を練り上げて、深めていくことが出来た。

② 全ての学校で事前授業 「得意な授業を持っている先生がそれを単発で発表」という形ではなく、事前授業を行い、そこでチームで討議し、より良い形に練り上げ、授業を構築していくというスタイルをつくることが出来た。

③ 様々な校種・美術館・企業との連携によって成長を連続的にダイナミックにとらえる事が出来た。

課題 ・下りてきた研究テーマに関しての周知徹底の難しさ。取り組みやすさ。

・新年度がスタートしてからの組織決め・授業者決定による、スケジュールの慌ただしさ。

3・26年度の研究の柱

繋がり ・ 連携

前年度の研究を貫く柱である「連携」を1年のみの研究とするのではなく、今年度もさらに発展し、深めていく。

① 発想・構想の能力

発想構想の能力は、多くの中学校美術教師が課題と感じ、また美術という教科で育成する資質・能力の核になる部分である。前年度の「成長」というキーワードをよりどころとし成長・発達の連続性における発想構想の能力の高まりについてさらに研究を深める。

② 育成する資質・能力の明確化

24年度完全実施となった学習指導要領において整理された「教科を通して育成する資質・能力」を、日々の授業において丁寧にとらえなおす視点で研修する。